

冊子

— 学校評議員として手掛けたもの —

伊藤 栄二



「学校評議員で知っている!!」知人一〇人に聞きました。答えは、「え、なにそれ、知らないよ。」「昔の代用教員制度?」(高齢者の方の答) : と 九人の人が知りませんの返事にシヨボン。

中には、「二年前に新聞で読んだことあるな。」オーこの人は有望かなと思ったが: 「子どもたちの学費の時代は過ぎたのであまり関心を持たなかったよ。ゴメンネ。」と悲しい返事ばかり。いかにもPR不足の感。かくいう私も平成十四年五月に南郷中学校の早川校長先生より学校評議員への就任依頼を受けたときは、不安と戸惑いから早速、関係機関から資料を送付していただき一読してみると、これが良いことばかり書かれてあり、本当に書かれているような『開かれた学校』として地域住民に愛された学校運営が出来るのかなと思ひ、フト頭の中を南郷中学校区学校懇話会設立の当時のことがよぎる。当時の校長先生と教頭先生と試行錯誤し、第一回目の会合を開催し、地域の人々の多数のご意見をいただいた感激を想い出し、学校が地域と共に歩むことの大切さを確信したのでした。そのことを考え、この制度に納得しお引き受けはしたものの、では一体

連携が強まれば目的達成になるのだが、さて現実はいろいろの役割を抱える多忙、多忙の日々を過ごしておられる皆さんを目の当たりに拝見し、なかなか言い出す機会もありませんでした。

考えていることより月日の経過はより速く九月の評議員連絡会にて評議員の皆さんに訴えたところ、意外にも皆さん同じ考えを持たれており同意された校長先生の了承も得ることにはなつたが、問題は中味、どのような構想でまとめるか悪戦苦闘の開始。考えがまとまらないある日、他の用事があり、朝一番学校に出かけたことが、書き出しのきつかけとなる。そして、学校は子ども(児童・生徒)を中心に転回していることに気がつく、学校サイドからでなく住民サイドの目で、「学校とは」と見つめ求めて書いていく。校長先生のアドバイスにより南郷中学校の評議員として南郷中を頭に書いていく。「角度を変えて改めて学校を見つめ直す面白い発想ですよ」と、おだて上手な校長先生の手管に単純に喜び、逆もまた真なりとか口ずさみ事項を整理する。

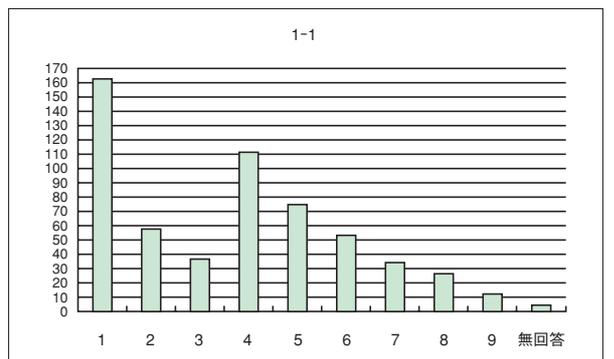
「モーゼの十戒」ではないが、まず、地域住民が学校に行くときは、ちょっと

1 「めざす町民像」について

1-1 子どもがどのように育って欲しいか(3つ選択)

対象: 町民193名

選択肢	人数	
1	161	83.4%
2	58	30.1%
3	37	19.2%
4	111	57.5%
5	75	38.9%
6	53	27.5%
7	34	17.6%
8	27	14.0%
9	13	6.7%
無回答	4	2.1%
計	573	



町民の皆様方にご協力をいただきました意向調査につきまして、調査結果がまとまりましたので、概要をご報告いたします。

一、生涯学習について

○生涯学習への参加経験者が多い上、参加希望や関心が高い。

○講座内容に対する要望は多様だが、中でも趣味・教養・健康など、日常生活に生かそうとする傾向がみられる。

○図書館や福祉文化会館などの公共施設を活動場所として利用することが多い。

○情報の入手方法については、自治体が発行する広報誌の利用者が多い。

二、学校教育について

○自ら考え意欲をもって課題を解決し

数授業等に対応できる多目的ルーム」なども望まれている。

○障害児教育に関しては、障害の種類や程度に応じたきめ細かな教育ができるよう、専門機関と連携した就業支援体制・相談体制の充実が求められている。

三、文化の振興について

○文化活動や芸術鑑賞に対して積極的な姿勢がみられる一方で、その機会については十分な満足度を示していない。

○町民の文化志向は、「ものの豊かさよりも心の豊かさ」にあり、文化との接点を身近に求めようとする傾向がみられる。

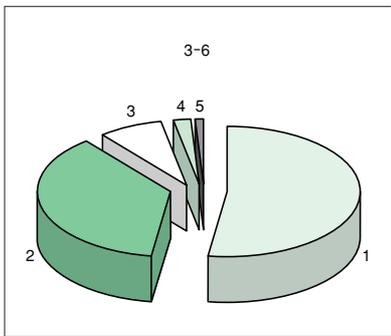
○「文化情報」の入手手段は広報誌や地域誌などに限られ、情報量が豊富

町民意向調査の結果報告

3-6 新しい教育活動の推進のために、学校と家庭・地域とが連携した取組が必要か

対象：町民193名

選択肢	人数		
1 必要	101	52.3%	
2 部分的に必要	71	36.8%	
3 どちらともいえない	15	7.8%	
4 あまり必要ない	4	2.1%	
5 全く必要ない	2	1.0%	
計	193		



何が出来るのかになるとなかなか実行まで足が進んで行きません。このようなできの悪い私たちを抱えて、さぞ校長先生や教頭先生方は頭を悩まされたことと思います。私は私なりに「学校評議員は一口で言うような活動をするの」がいつも頭にあり、そのことを言い表すことに苦悩？しておりました。あれこれ考えているうちに任期の一年はまたたく間に過ぎてしまい月日の経過は風のごとく速く、再び、令を重ねる空しさをこのときほど感じたことはありませんでした。

一念発起、十五年度も継続依頼を受けることになり、皆さんが何か「足跡」を残して置かないと、次の人、また、その次の人たちが我々一期の評議員みたいだと、また校長先生や教頭先生がご苦労されるのではないかと、元の木阿弥にならないように「足跡」が必要だと痛感しました。そこで、冊子にまとめ、次の方々を読んでいただき再なる展開の始まりが始まり、学校と地域の

とした心の準備によってゆとりの活動ができる住民一〇ケ条の作成。また、県教育センターより得た資料からあまり知られていない「学校ボランティアの葉」の作成。児童・生徒にとつて一番大切な授業を「授業って何」と、とり上げたり、いろいろの事項を評議員連絡会に持ち寄りケンケンガクガク。お陰で、評議員連絡会が予定より二回も多くなり皆さんに多大なご迷惑をかけてしまったことをおわびします。今から思えば、校長先生、教頭先生、アドバイザー役の鈴木・山本先生本当にご苦労様でした。

紙面の関係で冊子の紹介だけになってしまいました。私たちが南郷中学校第一期ヨタヨタ評議員連絡会がまとめた「学校案内」「地域住民と学校」をぜひ我らが愛する南郷中学にアクセスして手に入れ一読してください。

最後になりましたが、いまだに「学校評議員とは」を一口に言い表すことが出来ませんでした。ゴメンナサイ。

葉山に吹く『学びの風』

～葉山町教育総合プラン～

- いくことを「学力」としてとらえている。
 - 将来、子どもたちに必要な力として、社会性・協調性を求めている人が多
 - 開かれた学校づくりの観点から、学校と地域との連携を重要視し、体験的な学習を進める上でも地域の教育資源を活用することが望まれている。
 - 学校が「特色」をもつことに対しての支持率が高く、「少人数学級」、「外国語教育」など「特色」は多岐にわたっている。
 - 授業形態では、学習を少人数で行う「少人数指導」を望む声強いほか、「体験的な学習」、「発展的な学習」、「補完的な学習」については、大部分の人が肯定的である。
 - 学区制度については、弾力化を図り学校を自由に選択できるようにすることを求める声が目立つ。
 - 学校施設では、一般的に耐震補強などの構造的な安全性が求められ、保護者・教員からは、「情報教育やグループ学習、少人数で、あらゆるニーズに答えられる文化施設が望まれている。
 - スポーツの振興について
 - 地域のスポーツクラブへの加入率が低く、施設機能の充実や適切な指導者を求める声が目立つ。
 - スポーツ選手の育成・強化の推進に賛成する意見が多く、指導体制の整備が求められている。
 - 児童・生徒の運動能力が低下したと感じている教員が多く、地域スポーツクラブとの連携や外部指導者の活用を考える傾向がみられる。
 - 総合体育館、屋内プール、野外キャンプ場、ウォーキングコースなどの施設整備が望まれている。
 - 五、IT（情報化）について
 - 家庭内でのIT活用率は高く、学校とのコミュニケーションにITを活用したいという意見もみられる。
 - 学校での授業でパソコンを使いたいという児童・生徒の比率は高い。
 - 葉山町のWebページへのアクセスは教員の方が父母より多いという数値が出ている。
- 以上、調査結果の一部をご紹介いたしました。これらの結果を資料として、できる限り教育総合プランの策定に生かせるよう検討をしまいたいと思います。